別紙様式３

学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　岐阜希望が丘特別支援学校　学校運営協議会（第２回）

２　開催日時　　令和５年１０月２５日（水）　９：３０～１１：２０

３　開催場所　　岐阜希望が丘特別支援学校　会議室

４　参 加 者

会　　長	出口　和宏	岐阜大学教職大学院 特任教授
副 会 長	可児　隆	早田自治会連合会 会長
委　　員	大野　昌伸	早田公民館 館長
	青山　幸二	岐阜県福祉友愛アリーナ 館長
	安藤　順子	岐阜希望が丘特別支援学校 ＰＴＡ会長
	大城戸　克之	岐阜希望が丘こども医療福祉センター 副所長
	尾藤　俊郎	社会福祉法人清流園 次長
	中村　真由美	岐阜県重症心身障がい児（者）を守る会 会長
	今村　正子	社会福祉法人ポップコーン福祉会 施設長　（欠席）
	古田　悦子	児童デイサービスリハビリランド 統括管理者
学 校 側	平野　俊之	校長
	垣添　奈巳	教頭
	老田　晃聖	事務長
	出野　由美子	小学部主事
	肥田　幸宗	中学部主事
	久富　喜江	高等部主事
	長瀬　やよい	教務主任

５　会議の概要（協議事項）

（１）議長の選出について

会長　出口　和宏　氏　を議長とすることについて、全委員より承認が得られた。

（２）第１回運営協議会を受けての取組みについて

・新型コロナウイルス感染症５類移行を踏まえた各部及び各分掌の取組みについて説明した。

・学校全体の取組みについて、地域施設・学校所在市の機関と連携した防災訓練の実施や寄付物品贈呈式の実施等、感染症対策を踏まえつつ対面形式で行った活動について説明した。

（３）学校アンケートの結果について
・アンケート結果について、今年度の傾向や経年比較等の分析を加えつつ、説明した。

意見１：肢体不自由教育の専門性の向上のために、隣接する医療型障がい児入所施設（病院）から、助言者として療法士等を招くことをしているのか。
⇒肢体不自由教育のコア・スクールとして、所属の異なる多くの専門家に助言を仰いでいる。非常勤講師としても療法士等に定期的に助言を得ている。加えて、隣接する病院とは密接であり、頻繁に助言を仰ぐ体制ができている。今年度は、当校の職員研修に小児外科医師を講師として派遣していただいた。

意見２：「わからない」と回答した保護者が多いことが好意的な回答の率を下げている。放課後等デイサービスの充実等により、保護者が学校の様子を知る機会が減っている。学校からの発信・伝達も大切だが、保護者から積極的に情報を収集していくことも必要である。

意見３：他校の学校評価は好意的な回答の率が高い場合が多いが、この学校のように、保護者から忌憚のない意見を得られることはよいことである。厳しい意見もあるが、今の学校の取組みに自信をもち、地域との交流を大切にしつつ、この学校なりの教育を進めてほしい。

（４）作業学習製品の価格設定について
・第１回運営協議会後に開発した高等部作業学習製品の価格について審議し、承認された。

意見１：ネーム入キーホルダーは、販売時に受注、後日引き渡しとなるのか。
⇒はい。

意見２：琥珀糖は、一般販売可能か。炭水化物やエネルギー等の成分表を添付し、製品のよさをアピールしたらどうか。
⇒食品については、現在は感染症対策のため、校内関係者への販売のみに留めている。次年度以降、一般販売を行うのであれば、保健所への届け出等の手続きが必要となる。成分表については検討する。

意見３：名刺について１０枚単位となっているが、一般販売であれば１００枚単位の方がニーズが高いのではないか。大量購入割引等も今後検討願いたい。私的にもこの学校の宣伝にもなるので、学校名を入れたものを購入したい。
⇒大量購入の場合の価格設定については検討する。

（５）意見交換
・これまでの概要説明や協議事項を踏まえて、意見交流を行った。

意見１：本会のような外部からの助言や指摘を得ることが、この学校の改善につながっていることを実感した。学校についてよく知ることができ、参加してよかった。

意見２：学校評価アンケートについては、基礎疾患を抱えている児童生徒が通っている以上、命にかかわることは厳しく評価されがちである。また、保護者が児童生徒に学校の様子を尋ねても、直接言葉で返ってくることは少ない。週１回、新型コロナウ

イルス抗原検査を教職員全員が行っているとのことであるが、このことを保護者に周知することは難しい。発信する情報や方法についても考慮が必要である。

意見３：重症心身障がい児の校外学習や宿泊学習、修学旅行等への保護者の付添い参加の現状はどのようなものであるか。保護者の負担が軽減されているのか。
⇒県の事業として、校外学習や宿泊学習の日中における活動については、当校の看護師が付き添い、医療的ケアを実施することができるようになった。宿泊については日常の学校生活と大きく異なりリスクが高いため、保護者の付添いを依頼しているのが現状である。保護者が責任をもって夜間付添い可能な看護師を雇うことは可能だが、費用は保護者負担となる。

意見４：学校評価アンケートの「学校独自項目」は、保護者にとっては分かりづらく、答えにくい。そちらの評価に目を向けるよりも、実際に行っている教育に力を入れ、「教育方針」「家庭との連携」「教職員・授業」について、写真や動画を併用しつつ、分かり易く伝えていくことが大切である。
⇒伝わらなければ、取組みが評価されないというもどかしさはある。働き方改革をすすめる中で、教職員に負担を掛けることなく効果的に発信できる方法について検討したい。

意見５：学校評価アンケートの「わからない」という回答には、「質問そのものが分かりにくくて回答できない」ということと「実情を知らない」という、２つの側面がある。「わからない」についてはそれほど気に留めず、好意的ではない回答の数値に着目し、その改善に努めるとよい。

意見６：学校評価アンケートにおいて、好意的な回答の値が最も高いのが、「先生は愛情をもって接している」という項目である。過去２年もそうであり、これがこの学校のすべてを表している。新型コロナウイルス５類移行後の校外学習等の様子の写真を見ると、どの児童生徒も良い表情をしている。学校でしか体験できないような活動を楽しんでいる。

意見７：スポーツ大会の様子が紹介されたが、生涯を見据え、パラスポーツに取り組む児童生徒の出現を期待したい。学校近隣スポーツ施設も大いに活用してほしい。

意見８：本会において紹介される作業製品について、その工夫や製品開発のアイデアを聞くことが、毎回楽しみである。本会の委員が学校評価を行えば好意的な意見の回答率が１００％になる。

意見９：地域とのつながりが何より大切である。学校所在地の地域は、この学校の取組み を応援している。地域とつながり、仲良く過ごしてほしい。

（６）その他
・次回の日程調整を行った。
・１１月の学校祭のプログラムを配付し、現状は同居家族のみの参加としているため招待状は出さないが、運営委員においては感染症対策を講じたうえで参観可能であることを伝えた。

６　会議のまとめ

・学校評価アンケートについては、評価が下がった項目だけを取り上げるのではなく、「（５）の意見６」のように今回の回答での最高値を見出したり、微増ではあるが伸びた部分に注目したりすることも必要である。分析についても、課題だけではなく、前向きな分析も併記することはよい。

・地域とのつながりについて、特別支援学校ではコミュニティースクールとしての取組みがされている。高等学校でも取組みが始まっているが、全県下を対象としていることで、地域という軸をどこに置くべきか、まだ定まっていない状況である。高等学校と同じく、広域から通ってきている特別支援学校の場合、児童生徒にとっての本来の「地域」は、居住地の市町村であり、卒業後はそこへ帰っていく。しかし、学校としては、設置されている場所こそが「地域」であり、関係性を保っていく必要がある。特別支援学校の児童生徒は、学校に通っている期間は、所在の「地域」と密に連携しつつ、学校生活を営んでいくものである。